

教科	科目	単位数	種別	年次	
保健体育	体育	3	必修科目	1年	
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)			担当者	

学習目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
学習方法	単元によってグループ学習・男女共修・男女別学習・習熟度別学習の授業形態で行います。そのため、実施の時期は変更になることがあります。				
学習評価					
担当者から	・積極的に授業に参加して運動に興味・関心・意欲・態度をもって取り組むこと。 ・どの競技に関しても安全面を留意して運動に取り組むこと。 ・遅刻、欠席、忘れ物をしない。				

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	体づくり運動	体ほぐし運動	・運動の楽しさや心地よさを味わい、運動に親しんでいく活動(ウォーキング、ジョギング、サイドステップ、クロスステップ、ストレッチ、柔軟体操)					○		○	○	・心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、自他の心と体の関係や変化を確かめ、仲間と自主的に学ぶことが理解できる。 ・回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うことができ、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。 ・スポーツの始まりと発展、近代スポーツから国際スポーツへと発展した流れについて関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。	(体育実技) ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (体育理論) ・スポーツの意義や歴史、文化的特徴や、現代スポーツを取り巻くさまざまな問題について理解することができる。	・体育実技・体育理論についての学習に主体的に取り組もうとしている。	授業態度 発問評価 スキルテスト プリント、課題の提出状況
4			・仲間と交流することをねらいとしながら、主運動につながるのある展開となる活動を行う					○		○	○				
5			・自重を利用し負荷をかけたり、複数人で運動を組み合わせ、筋力を高める					○		○	○				
5			・できる最大回数や時間を手がかりにして、無理のない強さや回数を選んだ運動を行う					○		○	○				
6	器械運動	マット運動	・接転技(前転・後転・開脚前転・開脚後転)	○				○	○			・回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うことができ、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。 ・スポーツの始まりと発展、近代スポーツから国際スポーツへと発展した流れについて関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。			
6			・伸膝後転・伸膝前転・跳び前転	○				○	○						
6			・ぼんてん技(側転・ロンダート)	○				○	○						
6			・平均立ち(三点倒立・倒立・Y字バランス)	○				○	○						
6	体育理論	1 スポーツの始まりと変遷	1 スポーツの始まりと発展		○	○					○	・スポーツの始まりと発展、近代スポーツから国際スポーツへと発展した流れについて関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。			
6	(スポーツの発祥と発展)		2 近代スポーツから国際スポーツへ		○	○					○				
6	球技	ソフトボール	・オーバーハンドスロー	○				○	○			・易しい投球に対する安定したバット操作により出塁、進塁、得点する攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻防ができる。			
6			・キャッチング	○				○	○						
6			・キャッチボール(相手の胸をめがけて・ゴロの捕球から送球・フライの捕球から送球)	○				○	○						
6			・四角キャッチボール	○				○	○						
6			・バッティング(トスバッティング・スタンドティーバッティング)	○				○	○						
6			・ピッチング(・スタンダード投法・スリングショット・ウィンドミル投法)	○				○	○						
6			・ゲームおよび審判	○				○	○						
6	陸上競技	短距離走	・ウォームアップ	○				○	○			・短距離走を速く走るために、どのようなフォームで走れば良いか、どのような技能が必要であるか、また、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に取り組む。			
6			・スタート(クラウチングスタート)	○				○	○						
6			・中間疾走	○				○	○						
6			・フィニッシュ	○				○	○						
6			・50m、100m計測	○				○	○						
7		跳躍(走り幅跳び)	・跳び方(またぎ跳び、そり跳び、はさみ跳び)	○				○	○			・走り幅跳びを速くにどのようなフォームで跳躍すれば良			

7			・短助走からの踏み切り	○				○	○			・短助走からの踏み切りなどについて、どのような技能が必要であるか、どのようなトレーニングが効果的かなど、考えながら行う。	
7			・コントロールマーク設定の踏み切り	○				○	○				
7			・空中動作、着地動作	○				○	○				
7			・計測	○				○	○				
7	体育理論	2 文化としてのスポーツ	1 スポーツを文化としてとらえること			○	○					○	・スポーツの文化的内容、メディア影響によるスポーツ文化の変容について意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
7	(スポーツの発祥と発展)		2 スポーツ文化への多様なかわり方と変容				○	○					
8	陸上競技	長距離走	・10分間走	○					○	○			・ストライド走法、ピッチ走法などから、自分に合ったフォームを取り入れ、ペース配分などを考えながら走る。
8			・20分間走	○					○	○			
9			・ロードワーク(3, 2km)	○					○	○			
9			・計測	○					○	○			
9	体育理論	3 オリンピックとパラリンピックの意義	1 オリンピックの意義			○	○					○	・オリンピックとパラリンピックの意義について理解している。
9	(スポーツの発祥と発展)		2 パラリンピックの意義				○	○					
9	球技	ソフトテニス	・ラケットの握り方	○					○	○			・ストローク、サーブ、ボレーなどの個人的技能の基本を身につけ、ゲーム等で発揮する。
9			・フォアストローク	○					○	○			
9			・バックストローク	○					○	○			
9			・ボレー	○					○	○			
9			・サーブ	○					○	○			
9			・ラリーゲーム ・ミニゲーム	○					○	○			
9			・ダブルスゲームと審判法	○					○	○			
9			体育理論	4 スポーツが経済に及ぼす効果	1 スポーツと経済			○	○				
9	(スポーツの発祥と発展)	2 スポーツ産業の拡大					○	○					○
9		バレーボール	・オーバースパス	○					○	○			・バレーボールの基本的な個人技能や集団技能を身につけ、チームの特性を生かした攻撃と攻防の連係プレーをゲームで発揮する。
9			(キャッチパス・直上パス・オーバーハンドパス)	○					○	○			
9			・アンダーパス	○					○	○			
9			(片腕アンダー直上・両腕アンダー直上・アンダーハンドパス)	○					○	○			
9			・サーブ	○					○	○			
9			(アンダーハンドサーブ・フロッターサーブ・サイドサーブ)	○					○	○			
10			・レシーブ(3人レシーブ)	○					○	○			
10			・軟打へのランニングレシーブ)	○					○	○			
10			・スパイク(助走・ジャンプステップ・スウィング)	○					○	○			
10			・ブロック	○					○	○			
10			・攻撃につなぐトス	○					○	○			
10			・チームでの総合練習	○					○	○			
10			・ゲームおよび審判	○					○	○			
11	武道	柔道	・柔道着の着方	○					○	○			・受身や、投げ技、押さえ込み技等のかかり練習を通して様々な技を身につけ、崩しから掛ける一連の動作を身につける。
11			・礼法(立礼、座礼、立ち方、座り方)	○					○	○			
11			・姿勢と組み方(自然体、自護体、相四つ、ケンカ四つ、引き手と釣り手)	○					○	○			
11			・受身(前受け身、後ろ受身、横受身、前回り受身)	○					○	○			
11			・進退動作(歩み足、継ぎ足)	○					○	○			
12			・崩し(八方崩し)	○					○	○			
12			・体さばき	○					○	○			

12			・立ち技(大腰、体落とし、刈り技、	○				○	○				
12			・固め技と逃げ方(横四方、上四方、縦四方)	○				○	○				
12			・乱取りと試合	○				○	○				
1	冬季スポーツ	スキー(初級)	・スキー着脱方法	○				○	○			・基本的な技能を身につけ、積極的に練習するとともに、自己の能力に応じて考えながら滑走できる。	
1			・平地を含む緩斜面で(滑歩・滑走・直滑降・登行・転び方・起き上がり方・方向変換)	○				○	○				
1			・緩斜面滑走(広いスタンスのブルーク・ブルーク・狭いスタンスのブルークボーゲン)	○				○	○				
1			・リフトの乗降・ゲレンデのマナー	○				○	○				
2		スキー(中上級)	中斜面コースで実施	○				○	○				
2			・ブルーク斜滑降	○				○	○				
2			・横滑り(真下への横滑り・斜滑降の横滑り)	○				○	○				
2			・パラレルターン(大回り・中回り・小回り)	○				○	○				
2			・総合滑走(ターンの大きさ、リズム変化)	○				○	○				
2			・ゲレンデ滑走マナー	○				○	○				
2	体育理論	5 スポーツの高潔さとドーピング	1 スポーツの高潔さを守ること			○	○					○	・ドーピングが及ぼす社会全体への悪影響について、意見交換などの学習活動に、意欲的に取り組もうとしている。
2	(スポーツの発祥と発展)		2 スポーツにおけるドーピング			○	○					○	
3	体育理論	6 スポーツと環境	1 スポーツと環境問題			○	○					○	・スポーツと環境問題を関連付けて理解している。
3	(スポーツの発祥と発展)		2 これからのスポーツと環境保護			○	○					○	

教科	科目	単位数	種別	年次	
保健体育	体育	2	必修科目	2年	
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)			担当者	

学習目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
学習方法	単元によってグループ学習・男女共修・男女別学習・習熟度別学習の授業形態で行います。そのため、実施の時期は変更になることがあります。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
		以上の観点をふまえ、総合的に評価します。
担当者から	・積極的に授業に参加して運動に興味・関心・意欲・態度をもって取り組むこと。 ・どの競技に関しても安全面を留意して運動に取り組むこと。 ・遅刻、欠席、忘れ物をしない。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法		
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
4	体づくり運動	体ほぐし運動	・運動の楽しさや心地よさを味わい、運動に親しんでいく活動(ウォーキング、ジョギング、サイドステップ、クロスステップ、ストレッチ、柔軟体操)								○	○	・心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、自他の心と体の関係や変化を確かめ、仲間と自主的に学ぶことが理解できる。 (体育実技) ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (体育理論) ・合理的な動きを理解し、練習やトレーニングで向上させ、運動やスポーツを生涯にわたって継続していく効果的な学び方について理解する。	・体育実技・体育理論についての学習に主体的に取り組もうとしている。	授業態度		
4			・仲間と交流することをねらいとしながら、主運動につながるのある展開となる活動を行う						○		○	○				発問評価	
5			・自重を利用し負荷をかけたり、複数人で運動を組み合わせ、筋力を高める						○		○	○					スキルテスト
5			・できる最大回数や時間を手がかりにして、無理のない強さや回数を選んだ運動を行う						○		○	○					
6	陸上競技	短距離走	・ウォームアップ	○			○		○			・速く走るために効果的な練習を自己や集団の能力に応じて、考えながら実行する。					
6			・スタート(クラウチングスタート)	○			○		○								
6			・中間疾走	○			○		○								
6			・フィニッシュ	○			○		○								
6			・50m、100m計測	○			○		○								
6	球技	ソフトボール	・オーバーハンドスロー	○			○		○			・易しい投球に対する安定したバット操作により出塁、進塁、得点する攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻防ができる。					
6			・キャッチング	○			○		○								
6			・キャッチボール(相手の胸をめがけて・ゴロの捕球から送球・フライの捕球から送球)	○			○		○								
6			・四角キャッチボール	○			○		○								
6			・バッティング(トスバッティング・スタンドティーバッティング)	○			○		○								
6			・ピッチング(・スタンダード投法・スリングショット・ウィンドミル投法)	○			○		○								
6			・ゲームおよび審判	○			○		○								
7		バスケットボール	・パス	○			○		○			・パス、ドリブル、シュートなど、基礎的な技能を身につけ、ゲーム中のオフェンスを想定した動きを身に付ける。					
7	・ドリブル		○			○		○									
7	・各種シュート(個人)		○			○		○									
7	・パス、キャッチからのシュート		○			○		○									
7	・ハーフコートでの、2対2 3対3		○			○		○									

7			・ゲームと審判法	○			○		○									
7	体育理論	1 スポーツの技術と戦術	1 技術と技能			○	○								○		・技術と技能の違いについて理解し、戦術・作戦・戦略について具体的に考えることができる。	
7	(運動・スポーツの学び方)		2 技術の型に応じた練習			○	○								○			
7			3 戦術・作戦・戦略			○	○								○			
8	陸上競技	跳躍(走り幅跳び)	・跳び方(またぎ跳び、そり跳び、はさみ跳び)	○				○		○							・走り幅跳びを遠くにどのようなフォームで跳躍すれば良いか、どのような技能が必要であるか、どのようなトレーニングが効果的かなど、考えながら行う。	
8			・短助走からの踏み切り	○					○		○							
8			・コントロールマーク設定の踏み切り	○						○		○						
8			・空中動作、着地動作	○						○		○						
8			・計測	○						○		○						
9	体育理論	2 技能の上達過程と練習	1 技能の上達過程			○	○								○		・技術の上達には3つの段階があることを理解し、いろいろ工夫し効果的な練習方法を考えることができる。	
9	(運動・スポーツの学び方)		2 効果的な練習方法			○	○								○			
9	陸上競技	長距離走	・10分間走	○				○		○		○					・長距離走を走るために、どのようなフォーム、呼吸法が必要か、また、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に調べ取り組む。	
9			・20分間走	○					○		○							
9			・ロードワーク(3, 2km)	○						○		○						
9			・計測	○						○		○						
9	体育理論	3 効果的な動きのメカニズム	1 動きの開始と持続			○	○								○		・どのような仕組みで体の動きが開始され持続していくのか理解できる。	
9	(運動・スポーツの学び方)		2 動きのコントロール			○	○								○			
9	球技	バドミントン	・グリップの理解	○					○		○						・シャトルcockとフライングの違いを理解し、正確なショットのためのストロークができる。 ・シングルス、ダブルスにおける戦術を理解できる。	
9			・リアコートからのショット	○						○		○						
9			・フロントコートからのショット	○						○		○						
10			・サービス	○						○		○						
10			・シングルス攻防	○							○		○					
10			・ダブルスの攻防	○							○		○					
10			・ゲームおよび審判	○							○		○					
10			・ゲームおよび審判	○							○		○					
10		サッカー	・パス(トラップ)・ドリブル・シュート等の基本技術	○						○		○						・基本的な集団技能や個人技能を身につけ、具体的な作戦を立てて、積極的に活動する。 ・ディフェンスなどの具体的な攻防の場面を想定し、互いに協力して有効な動きを身に付ける。
10			・3対3 4対1等のゴールゲーム	○							○		○					
10	・スモールサイドゲーム		○							○		○						
10	・ゲームおよび審判		○							○		○						
10	体育理論	4 技能と体力	1 運動・スポーツにおける技能と体力の関係			○	○								○		・技能と体力の関係を理解し、正しいトレーニングの原理・原則を理解できる。	
10	(運動・スポーツの学び方)		2 練習とトレーニングの原理と原則			○	○								○			
11	武道	柔道	・柔道着の着方	○					○		○						・基本技能を身につけ、適切な攻撃や防御の動きを理解する。 ・かかり練習を通して様々な技を身につけ、崩しから掛ける一連の動作を身につける。	
11			・礼法(立礼、座礼、立ち方、座り方)	○						○		○						
11			・姿勢と組み方(自然体、自護体、相四つ、ケンカ四つ、引き手と釣り手)	○							○		○					
11			・受身(前受け身、後ろ受身、横受身、前回り受身)	○							○		○					
11			・進退動作(歩み足、継ぎ足)	○							○		○					
12			・崩し(八方崩し)	○								○		○				

12			・体さばき	○			○	○					
12			・立ち技(大腰、体落とし、刈り技、	○			○	○					
12			・固め技と逃げ方(横四方、上四方、縦四方)	○			○	○					
12			・乱取りと試合	○			○	○					
1	冬季スポーツ	スキー(初級)	・スキー着脱方法	○			○	○			・基本的な技能を身につけ、積極的に練習するとともに、冬に限られるスキーを安全に楽しもうとする。 ・スムーズにスキー操作ができる効果的な練習を、自己の能力に応じて考えながら実行する。		
1			・平地を含む緩斜面で(滑歩・滑走・直滑降・登行・転び方・起き上がり方・方向変換)	○			○	○					
1			・緩斜面滑走(広いスタンスのブルーク・ブルーク・狭いスタンスのブルークボーゲン)	○			○	○					
1			・リフトの乗降・ゲレンデのマナー	○			○	○					
2		スキー(中上級)	中斜面コースで実施	○			○	○					
2			・ブルーク斜滑降	○			○	○					
2			・横滑り(真下への横滑り・斜滑降の横滑り)	○			○	○					
2			・パラレルターン(大回り・中回り・小回り)	○			○	○					
2			・総合滑走(ターンの大きさ、リズム変化)	○			○	○					
2			・ゲレンデ滑走マナー	○			○	○					
2	体育理論 (運動・スポーツの学び方)	5 体力トレーニング	1 体力トレーニングを支える基礎理論		○	○					○	・様々なトレーニングの方法と、進め方について理解できる。	
2			2 体力トレーニングの進め方		○	○							○
2			3 筋力トレーニング		○	○							○
2			4 持久力トレーニング		○	○							○
2			5 調整力・柔軟性のトレーニング		○	○							○
3	体育理論 (運動・スポーツの学び方)	6 運動やスポーツでの安全の確保	1 運動やスポーツによるけがの実態		○	○					○	・運動やスポーツを行う際の注意事項およびけがの種類や発生原因について理解できる。	
3			2 運動やスポーツを行うときに注意すること		○	○							○

教科	科目	単位数	種別	年次	
保健体育	体育	2	必修科目	3年	
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)			担当者	

学習目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
学習方法	単元によってグループ学習・男女共修・男女別学習・習熟度別学習の授業形態で行います。				
学習評価					
担当者から	・積極的に授業に参加して運動に興味・関心・意欲・態度をもって取り組むこと。 ・どの競技に関しても安全面を留意して運動に取り組むこと。 ・遅刻、欠席、忘れ物をしない。				

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法		
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
4	体づくり運動	体ほぐし運動	・運動の楽しさや心地よさを味わい、運動に親しんでいく活動(ウォーキング、ジョギング、サイドステップ、クロスステップ、ストレッチ、柔軟体操)									・心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、自他の心と体の関係や変化を確かめ、仲間と自主的に学ぶことが理解できる。	(体育実技) ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (体育理論) ・ライフステージやライフスタイルに応じ生涯にわたってスポーツと関わるためのスポーツライフを設計することができる。	・体育実技・体育理論についての学習に主体的に取り組もうとしている。	授業態度		
4			・仲間と交流することをねらいとしながら、主運動につながるのある展開となる活動を行う												発問評価		
5			・自重を利用し負荷をかけたり、複数人で運動を組み合わせて、筋力を高める												スキルテスト		
5			・できる最大回数や時間を手がかりにして、無理のない強さや回数を選んだ運動を行う												プリント、課題の提出状況		
5	選択制体育A ・サッカー ・ソフトテニス ・バレーボール ・卓球	○サッカー	・パス(トラップ)・ドリブル・シュート等の基本技術	○				○		○		(体育実技) ○各種目共通とする ・授業に積極的に取り組み、それぞれの種目の楽しさを味わおうとしている。 ・自分やチームの課題を発見し、効果的な練習の仕方を工夫している。 ・工夫された練習内容を活動日誌に記入する。 ・各種目の基礎的技術を習得し、個人技能を使いながら作戦に合った動きができる。 (体育理論) ・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方、ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方、スポーツ推進のための施策と諸条件、豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について理解することができる。					
5			・スモールサイドゲーム	○				○		○							
5			・ゲームおよび審判	○				○		○							
5			・活動日誌記入					○		○	○						
5		○ソフトテニス	・ラケットの握り方	○				○		○							
5			・フォア、バックストローク	○				○		○							
5			・サーブ、ボレー	○				○		○							
6			・ラリーゲーム、ダブルスゲーム	○				○		○							
6	体育理論 (豊かなスポーツライフの設計)	1 生涯スポーツの見方・考え方	・活動日誌記入					○		○	○						
6			2 ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方		○	○					○						
6	選択制体育A ・オーバー、アンダーパス ・サーブ、レシーブ(3人レシーブ) ・スパイク(助走・ジャンプステップ・スウィング) ・ブロック、攻撃につなぐトス ・チームでの総合練習 ・ゲームおよび審判 ・活動日誌記入 ○卓球 ・ボールつき(初心者) ・フォアハンドストローク ・サービス、2対1のゲーム ・シングルのゲーム、ダブルスのゲーム ・ルールと審判法 ・活動日誌記入	○バレーボール	・オーバー、アンダーパス	○				○		○							
6			・サーブ、レシーブ(3人レシーブ)	○				○		○							
6			・スパイク(助走・ジャンプステップ・スウィング)	○				○		○							
7			・ブロック、攻撃につなぐトス	○				○		○							
7			・チームでの総合練習	○				○		○							
7			・ゲームおよび審判	○				○		○							
7			・活動日誌記入					○		○	○						
7		○卓球	・ボールつき(初心者)	○				○		○							
7			・フォアハンドストローク	○				○		○							
7			・サービス、2対1のゲーム	○				○		○							
7			・シングルのゲーム、ダブルスのゲーム	○				○		○							
8			・ルールと審判法	○				○		○							
8			・活動日誌記入					○		○	○						
8			陸上競技	長距離走	・10分間走	○				○							
8	・20分間走	○						○									
8	体育理論 (豊かなスポーツライフの設計)	2 ライフスタイルに応じたスポーツ	1 いろいろなスポーツライフスタイル		○	○					○						
8			2 豊かなスポーツライフの設計		○	○					○						
8	選択制体育B ・ソフトボール ・ソフトテニス ・バスケットボール ・卓球	○ソフトボール	・オーバーハンドスロー	○				○		○							
8			・キャッチング	○				○		○							
8			・キャッチボール(相手の胸をめがけて・ゴロの捕球から送球・フライの捕球から送球)	○				○		○							
8			・四角キャッチボール	○				○		○							
9			・バッティング(トスバッティング・スタンドティーバッティング)	○				○		○							
9			・ピッチング(・スタンダード投法・スリングショット・windミル投法)	○					○		○						

9			・ゲームおよび審判	○			○		○		
9			・活動日誌記入					○		○	○
9		○バスケットボール	・パス・ドリブル・シュート等の基礎技術	○			○		○		
9			・パス・ドリブル・シュート等の基礎	○			○		○		
9			・3対3 ・ハーフコートゲーム	○			○		○		
10			・ゲームと審判	○			○		○		
10			・活動日誌記入					○		○	○
10	体育理論	3 日本のスポーツ	1 日本のスポーツ振興の歩み		○	○					○
10	(豊かなスポーツライフの設計)		2 地域とスポーツクラブ			○	○				○
11	選択制体育C	○バドミントン	・ラケットの握り方	○			○		○		
11	・バドミントン		・シャトルすくい・シャトルキャッチ	○			○		○		
11	・ダンス		・いろいろなラリー	○			○		○		
11	・卓球		・ロングハイサーブ	○			○		○		
11			・ショートサーブ	○			○		○		
11			・ハイクリヤー・ドライブ・ドロップ	○			○		○		
11			・ヘアピン・スマッシュ	○			○		○		
11			・ゲームと審判	○			○		○		
12			・活動日誌記入					○		○	○
12		○ダンス	・アップ・ダウンのリズム取り	○			○		○		
12			・クロス・ボックスステップ	○			○		○		
12			・アイソレーション	○			○		○		
12			・ウェイブ	○			○		○		
12			・発表および撮影	○			○		○		
12			・活動日誌記入					○		○	○
1	体育理論	4 スポーツと環境	1 スポーツと環境問題		○	○					○
1	(豊かなスポーツライフの設計)		2 これからのスポーツと環境保護			○	○				○

教科	科目	単位数	種別	年次	
保健体育	保健	1	必修科目	1年	
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)			担当者	

学習目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
学習方法	・現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動が重要であることを学ぶ。 ・安全な社会生活について理解を深めるとともに、危険の予測・回避の方法や、応急手当の方法を学ぶ。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	以上の観点をふまえ、 授業の取り組みや単元テスト、課題提出状況などを総合的に評価します。	
担当者から	・1単位の教科なので休まないこと。 ・ノートをしっかりとること。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	現代社会と健康	1 健康の考え方と成り立ち	・健康についての多様な考え方	○	○						○	・健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解している。 ・生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。 ・喫煙と飲酒は生活習慣病などの要因になることを理解している。 ・薬物乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことを理解している。 ・精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。 ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。	・現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。		授業態度 発問評価 単元テスト プリント、課題の提出状況
4			・健康の成り立ちとその要因	○	○						○				
4		2 私たちの健康のすがた	・わが国における健康水準の向上	○	○						○				
4			・わが国における健康問題の変化	○	○						○				
5		3 生活習慣病の予防と回復	・生活習慣病とその種類	○	○						○				
5			・予防から回復まで	○	○						○				
5		4 がんの原因と予防	・がんとその種類	○	○						○				
5			・がんの予防	○	○						○				
6		5 がんの治療と回復	・がんの治療と緩和ケア	○	○						○				
6			・がんとともに生きる社会づくり	○	○						○				
6		6 運動と健康	・健康からみた運動の意義	○	○						○				
6			・健康によい運動の仕方	○	○						○				
7		7 食事と健康	・健康的な食生活の意義	○	○						○				
7			・健康に良い食事のとり方	○	○						○				
7		8 休養・睡眠と健康	・健康からみた休養の意義	○	○						○				
7			・健康からみた睡眠の意義	○	○						○				
8		9 喫煙と健康	・喫煙の影響	○	○						○				
8			・喫煙への対策	○	○						○				
8		10 飲酒と健康	・飲酒の影響	○	○						○				
8			・飲酒への対策	○	○						○				
9		11 薬物乱用と健康	・薬物乱用の影響	○	○						○				
9			・薬物乱用の要因と対策	○	○						○				
9		12 精神疾患の特徴	・精神疾患の要因と種類	○	○						○				
9			・精神保健の今日的課題	○	○						○				
10		13 精神疾患の予防	・日常生活における精神疾患の予防	○	○						○				
10			・精神疾患の早期発見・早期治療	○	○						○				
10		14 精神疾患からの回復	・専門家による支援と治療	○	○						○				
10			・社会環境の整備	○	○						○				
11		15 現代の感染症	・感染症とは	○	○						○				
11			・さまざまな感染症	○	○						○				
11		16 感染症の予防	・感染症予防の3原則	○	○						○				
11			・現代の感染症対策	○	○						○				

12		17 性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズとは	○	○					○					
12			・性感染症・エイズの予防	○	○					○					
12		18 健康に関する意思決定・行動選択	・意思決定・行動選択とそれに影響を与える要因	○	○					○	・健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方により、適切な意思決定や行動選択をし、自らの健康を適切に管理することがとともに、環境づくりが重要であることを理解する。				
12			・適切な意思決定・行動選択を実現する工夫	○	○					○					
1		19 健康に関する環境づくり	・健康を保持増進するための環境	○	○					○					
			・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくり	○	○					○					
1	安全な社会生活	1 事故の現状と発生要因	・事故とその被害	○	○					○	・個人及び社会生活において、安全な社会を形成するには、事故等の発生には人的要因及び環境要因が関わることを踏まえ、個人の取組に加えて社会的な取組が求められることを理解する。	・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現している。	・安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。		
1			・事故の発生に関連する要因	○	○									○	
2		2 安全な社会の形成	・自他の安全を確保する行動	○	○									○	
2			・安全を確保する社会の取り組み	○	○									○	
2		3 交通における安全	・交通事故防止のための取り組み	○	○									○	
2			・交通事故と運転者の責任	○	○									○	
3		4 応急手当の意義とその基本	・応急手当の意義	○	○						○			・個人が心肺蘇生法を含む応急手当の技能を身に付けることの必要性を理解している。	・応急手当や心肺蘇生法について、習得した知識や技能を傷病悪化防止のための適切な方法に応用できる。
3			・応急手当の手順	○	○										
3		5 日常的な応急手当	・けがに応じた応急手当	○	○						○				
3			・熱中症の応急手当	○	○									○	
3		6 心肺蘇生法	・心肺蘇生法の意義と方法	○	○						○				

教科	科目	単位数	種別	年次	
保健体育	保健	1	必修科目	2年	
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)			担当者	

学習目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
学習方法	・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、各生活段階の健康課題に応じ自己の健康管理及び環境づくりが重要であることを学ぶ。 ・健康を支える環境づくりについて理解を深め、さまざまな情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することを旨とする。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	以上の観点をふまえ、授業の取り組みや単元テスト、課題提出状況などを総合的に評価します。	
担当者から	・1単位の教科なので休まないこと。 ・ノートをしっかりとること。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	生涯を通じる健康	1 ライフステージと健康	・ライフステージと死亡や病気の関係	○	○					○		・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。 ・労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病等を踏まえ適切な健康管理及び安全管理が必要であることを理解している。	・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。	授業態度 発問評価 単元テスト プリント、課題の提出状況
4			・各ライフステージにおける健康課題とその支援	○	○						○				
4		2 思春期と健康	・思春期の体と健康	○	○						○				
4			・思春期の心と健康	○	○						○				
5		3 性意識と性行動の選択	・性意識とその尊重	○	○						○				
5			・性に関する情報と性行動	○	○						○				
5		4 妊娠出産と健康	・受精、妊娠、出産	○	○						○				
5			・母子保健サービスの活用	○	○						○				
6		5 避妊法と人工妊娠中絶	・家族計画の意義と避妊法	○	○						○				
6			・人工妊娠中絶	○	○						○				
6		6 結婚生活と健康	・結婚生活の基盤となる心身の発達	○	○						○				
6			・結婚生活と家族の健康	○	○						○				
7		7 中高年期と健康	・加齢による変化と健康	○	○						○				
7			・高齢者の健康を支える取り組み	○	○						○				
7		8 働くことと健康	・働くことと健康のかかわり	○	○						○				
7			・働き方と健康問題の変化	○	○						○				
8		9 労働災害と健康	・労働災害とその要因	○	○						○				
8			・労働災害の防止	○	○						○				
8		10 健康的な職業生活	・職場における取り組み	○	○						○				
8			・仕事と生活の調和	○	○						○				
9	健康を支える環境づくり	1 大気汚染と健康	・大気汚染の原因と健康影響	○	○						○	・人間の生活や産業活動が自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあり、汚染の防止及び改善の対策を取る必要があることを理解している。 ・環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、それに基づいて行われていることを理解している。 ・食品の安全性確保は、健康の保持増進にとって重要であり、食品衛生活動は、食品の安全	・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	
9			・大気にかかわる地球規模の問題	○	○						○				
9		2 水質汚濁、土壌汚染と健康	・水質汚濁とその健康影響	○	○						○				

9		・土壌汚染とその健康影響		○	○						○	安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づいて行われていることを理解している。 ・保健・医療制度や地域の保健・医療機関を適切に利用することが重要であることを理解している。 ・医薬品は有効性や安全性が審査されており、正しく利用することが有効であることを理解している。
10		・大気汚染、水質汚濁、土壌汚染のかかわり		○	○						○	・我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策が行われていることを理解している。
10	3 環境と健康にかかわる対策	・環境汚染の防止とその対策		○	○						○	・健康に関する環境づくりが重要であり、積極的な社会参加が人々の健康につながることや、適切な情報の活用が有効であることを理解している。
10		・産業廃棄物の処理と健康		○	○						○	
10	4 ごみの処理と上下水道の整備	・ごみの処理の現状		○	○						○	
11		・安全で良質な水の確保		○	○						○	
11	5 食品の安全性	・食品の安全性と健康		○	○						○	・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であることを理解している。
11		・食品の安全性に関する今日的課題		○	○						○	また、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解している。
11	6 食品衛生にかかわる活動	・食品の安全性の確保		○	○						○	
12		・食品の安全と私たちの役割		○	○						○	
12	7 保健サービスとその活用	・保健行政の役割		○	○						○	・生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関等を適切に活用することが必要であることを理解している。
12		・保健サービスの活用		○	○						○	
1	8 医療サービスとその活用	・医療の供給と医療保険		○	○						○	
1		・医療機関と医療サービスの活用		○	○						○	
1	9 医薬品の制度とその活用	・医薬品の種類と使用法		○	○						○	・医薬品は、有効性・安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解している。
2		・医薬品の副作用と安全性を守る取り組み		○	○						○	
2	10 さまざまな保健活動や社会的対策	・健康を支える保健活動と社会的対策		○	○						○	・我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを理解している。
3		・保健活動や社会的体格への住民の理解		○	○						○	
3	11 健康に関する環境づくりと社会参加	・健康と環境づくり		○	○						○	・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。
3		・環境づくりへの社会参加と情報の活用		○	○						○	また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解している。

教科	科目	単位数	種別	年次	
保健体育	生涯スポーツ	2	選択科目	異年次合同	
使用教科書	なし			担当者	

学習目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
学習方法	・生涯を通して、スポーツの推進及び発展に寄与するための課題研究に主体的に取り組む。	
	・スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、必要な技能を身に付ける。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	以上の観点をふまえ、総合的に評価します。	
担当者から	・座学中心となります。 ・積極的に授業に参加して生涯にわたってスポーツに取り組めるような計画を立て実践できるようになろう。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	豊かなスポーツライフの設計	生涯スポーツの見方・考え方	社会の変化とスポーツの役割について考える					○		○	○	・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解している。	・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。	レポート提出
5			ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方について考える					○		○	○				
6		ライフスタイルに応じたスポーツ	色々なスポーツライフスタイルについて考える					○		○	○				
7			豊かなスポーツライフの設計					○		○	○				
8	マイスポーツライフ①	マイスポーツライフの設計	生涯を通して取り組めるスポーツの設計①					○		○	○	・生涯を通して取り組めるスポーツの設計の仕方を理解している。	・生涯を通して取り組めるスポーツの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	・生涯を通して取り組めるスポーツの設計の仕方について、学習に主体的に取り組もうとしている。	
9		マイスポーツライフを実践する	生涯を通して取り組めるスポーツの実践①					○		○	○				
10		リーダーとしてマイスポーツライフを実践する	グループリーダーとして実践する①					○		○	○				
11	マイスポーツライフ②	マイスポーツライフの設計	生涯を通して取り組めるスポーツの設計②					○		○	○	・生涯を通して取り組めるスポーツの設計の仕方を理解し、リーダーとして実践することができる。	・生涯を通して取り組めるスポーツの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	・生涯を通して取り組めるスポーツの設計の仕方について、学習に主体的に取り組もうとしている。	
12		マイスポーツライフを実践する	生涯を通して取り組めるスポーツの実践②					○		○	○				
1		リーダーとしてマイスポーツライフを実践する	グループリーダーとして実践する②					○		○	○				
2		リーダーとしてマイスポーツライフを実践する	グループリーダーとして実践する②					○		○	○				
3		リーダーとしてマイスポーツライフを実践する	グループリーダーとして実践する②					○		○	○				

教科	科目	単位数	種別	年次	
保健体育	スポーツⅡ	2	選択科目	3年	
使用教科書	なし			担当者	

学習目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
学習方法	・必修体育をベースに、さらに高度な技術、技能を身に付け個人や集団のレベルアップを目指します。 ・種目によってグループ学習・男女共修・男女別学習・習熟度別学習の授業形態で行います。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
		以上の観点をふまえ、総合的に評価します。
担当者から	・積極的に授業に参加して運動に興味・関心・意欲・態度をもって取り組むこと。 ・どの競技に関しても安全面を留意して運動に取り組むこと。 ・選択者の人数によって実施できる種目が限られてくる可能性があることを理解すること。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	活動計画立案		前期分(月別)の活動計画を立てる				○		○		○	・運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動し、目的に応じた技能を身につけることができる。	・自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動ができる。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	課題の提出状況
5	球技	○サッカー	・鳥かご、ボゼッション・ボール回しの応用	○			○		○			・自分が蹴りたいところにきちんとコントロールして蹴ることができる。 ・シュートを打つ人の蹴りやすいところに落とすことができる。 ・クロスボールをゴールにダイレクトで合わせることができるか。	・状況を瞬時に判断し、シュート・パスすることができる。 ・味方のことを考えたポジショニングをとることができる。	・個人技能を使いまた、チームのことを考えた作戦、動きができる。 ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	授業態度
5			・リターンパスからのシュート	○			○		○						発問評価
5			・シュート練習・クロスからのシュート	○			○		○						スキルテスト
5			・3対3・5対5のシュートゲーム	○			○		○						プリント、課題の提出状況
5			・ゲーム	○			○		○						
5		○ソフトボール	・オーバーハンドスロー・・・キャッチング	○			○		○			・長い距離でも正確に送球できるか。 ・ボールの正面・落下地点に素早く入ることができるか。 ・球を正確にうつことができる。	・長打された場合など、中継に入り周りを見て判断できるか。 ・得点をとるために打者・走塁者・守備位置を見て判断してプレーをすることができる。	・個人技能を使いながら作戦に合った動きができる。 ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	授業態度
6			・ノック練習(相手の胸をめがけて・ゴロの捕球から送球・フライの捕球から送球)	○			○		○						発問評価
6			・ゲッツーを取る練習	○			○		○						スキルテスト
6			・バッティング(トスバッティング・スタンドティーバッティング)	○			○		○						プリント、課題の提出状況
6			・中継プレー、カットオフの練習	○			○		○						
7			・ゲーム	○			○		○						
7		○ソフトテニス	・サーブ、ボレー	○			○		○			・正確に狙ったところに打つことができるか。 ・どんな方向にきても対応ができるか。 ・正しく身につけた技術を仲間に教えることができる。	・ラケットを上げながらボールの落下地点を予測することができるか。 ・正しく身につけた技術を仲間に教えることができる。	・個人技能を使いながら作戦に合った動きができる。 ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	授業態度
8			・スマッシュ・サービスボールを打ちかける	○			○		○						発問評価
9			・いろいろな方向へのボレー、連続ボレー	○			○		○						スキルテスト
9			・ラリーゲーム、ダブルスゲーム	○			○		○						プリント、課題の提出状況
9	活動計画立案		後期分(月別)の活動計画を立てる				○		○		○	・運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動し、目的に応じた技能を身につけることができる。	・自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動ができる。	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	課題の提出状況
10	球技	○バスケットボール	レイアップ、2P、3P	○			○		○			・テンポよく・正確にシュートを打つことができるか。 ・味方のスピード落とすことなく、パスすることができるか。 ・速攻練習、4対4	・周りの状況を判断してプレーすることができるか。 ・組織的な動きで相手のスキをつくことができる。	・個人技能を使いながら作戦に合った動きができる。 ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	授業態度
10			2対2 ・3対3、ツーマン、スリーマン	○			○		○						発問評価
10				○			○		○						スキルテスト

10			・ゲーム	○			○	○									している。	プリント、課題の提出状況
10	○バレーボール	・サーブの打ち分け、サーブレシーブ(3人)	○				○	○		・狙った所に打つことができるか。誰がレシーブするかお互いに指示することができるか。	・落下地点をよんでジャンプし、スパイクを打つことができるか。 ・相手のトスや助走を見て、すばやくポジショニングをとることができる。	・グループで協力し合い、レベルにあったメニューで練習できるか。 ・個人技能を使いながら作戦に合った動きができる。 ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	授業態度					
10		Aクイック、Bクイック	○				○	○					発問評価					
10		・ブロック、攻撃につなぐトス	○				○	○					スキルテスト					
10		・グループでの練習	○				○	○					プリント、課題の提出状況					
10		・ゲーム	○				○	○										
10																		
11	○バトミントン	・ロングハイサーブ、・ショートサーブ	○				○	○		・素早く落下地点に入り、狙った所に打つことができるか。 ・ペアで課題や苦手部分を克服することができる。	・周りの状況を判断してプレーすることができるか。 ・ペアで課題や苦手部分を克服することができる。	・個人技能を使いながら作戦に合った動きができる。 ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	授業態度					
11		・ハイクリヤー・ドライブ・ドロップ	○				○	○						発問評価				
11		・ホームポジションからのフットワーク	○				○	○						スキルテスト				
11		・ヘアピン・スマッシュ	○				○	○						プリント、課題の提出状況				
11		半面コートのゲーム	○				○	○										
11		・ゲーム	○				○	○										
12	○卓球	・フォアハンドストローク	○				○	○		・相手が取りづらいコースに打ち分けすることができるか。 ・狙った所に打つことができるか。手首を使い、横回転をかけることができるか。	・サービスを出し、素早く基本姿勢にもどり、次の攻撃に備えることができるか。 ・相手が嫌なところに打つことができるか。	・個人技能を使いながら作戦に合った動きができる。 ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	授業態度					
12		・カットとカット打ち	○				○	○						発問評価				
12		・スマッシュ・サイドスピン	○				○	○						スキルテスト				
1		・3球目攻撃	○				○	○										
1		・サービス、2対1のゲーム	○				○	○						プリント、課題の提出状況				
1		・シングルのゲーム、ダブルスのゲーム	○				○	○										